

平成 29 年度すぎなみ大人塾 合同成果発表会

日時 平成 30 年 2 月 17 日 (土) 午後 1 時 30 分から 5 時

会場 セシオン杉並 3 階 第 8.9.10 集会室

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

平成 29 年度すぎなみ大人塾、合同成果発表会をはじめます。前半はコースごとの活動内容、参加した方の声を紹介します。後半は交流企画として、これまでに卒塾された方と今年参加された方とでワークショップを行います。今年は「大人塾とはなんだったのか？」ということテーマに、高円寺コース学習支援者の川上さんの進行で行います。それでは、さっそく開会の挨拶をさせていただきます。

生涯学習推進課長 本橋宏己

みなさん、こんにちは。生涯学習推進課長の本橋です。本日はすぎなみ大人塾合同成果発表会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今年度の大人塾は、総合コースのほかに、地域コースとして、10 月から高円寺と西荻の地域展開をはじめました。そのコースの企画運営には、多くの卒塾生の方も積極的かつ中心となって活動してくださいました。今日は、その成果を発表してくださるということで、非常に楽しみにしております。みなさまも大人塾を卒塾され、その後地域の学びの場の担い手となって、学びを循環させていただければと思っております。学びのネットワークがどんどん広がっていくことを期待しております。よろしく申し上げます。

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

それでは、さっそく各コースの発表をお願いします。まずは、総合コースの発表から始めます。学習支援者の伊藤さん、よろしく申し上げます。

総合コース受講生司会

総合コースは 5 月から 1 月まで合計 15 回、「GENERATION LAB コノ時代ヲ解読セヨ」というテーマで開催しました。今日は、「ジェネレーションラボ」がどのような内容だったのかを学習支援者の伊藤さんからお話しいただきます。また、我々受講生が何を解読したのか、解読できなかったのかという点について 2 つほど発表させていただきたいと思えます。

総合コース学習支援者 伊藤剛

総合コース「GENERATION LAB」は 10 ヶ月のプログラムなので、10 分間でのふり

かえりは駆け足になりますが、このあとの発表の前提を共有させていただく、ということでお話しします。

総合コースは、大きく分けると「知る」「問う」「発信する」の三部構成でした。第一部は、「知る」ことについてです。「調べ方を調べる」という観点から、調べることを専門にしている方たちをお招きして学びました。例えば、ジャーナリストの方からは、一言で「メディア」といっても、新聞やテレビ、ラジオは陸上走者でいえば短距離走者、週刊誌や月刊誌は中距離走者、書籍やノンフィクション・ドキュメンタリー番組は長距離走者として、それぞれ調べ方が異なることを学びました。また、報道の三つの役割、「ファクト・事実を伝える役割」、「解説・分析・説明をする役割」、「批評や論評をする役割」を認識し、相対的に受け止めることが大切だと学びました。

また、そのジャーナリストの方が松本サリン事件取材した経験から、「事実と真実は違う」ということを、改めて考えさせられる講義でもありました。最後に、5人1組になり、ある発表者に最近の話をしてもらい、そのほかの4人が内容を200字の原稿にまとめる簡単なワークも行いました。同じ話を聞いて、それぞれがどのように書き留めるのか、どのような違いが生まれるのかをみんなが共有するのは、メディアリテラシーを考える上でとても貴重な体験でした。他にも、Googleの方をゲストに招いた講義では、ネット検索を使ってどのようにして求めている情報に辿り着くのか、インターネットの限界についても教えてもらいました。グループごとに実際にインターネットを使いながら、『マイナス検索』などのさまざまな検索方法を教わりました。それ以外にも、研究者のリサーチ手法をうかがったり、図書館の活用方法を改めて学ぶ機会をつくりました。

第二部では、「考え方を考える」という観点から、自分の思考の癖を読み解く「自分リテラシー」を掲げました。最初は座学で学びつつ、「自分なりのルール」、「考え方のルール」を読み解くことも行いました。そのなかで一番フォーカスしたのは「言葉」です。普段話している言葉には、どれくらい自分の思考が入っているのかを考えました。

こうした学びを経て、第三部では五つのグループにわかれて、ビッククエスチョン、スモールクエスチョンなど問いの立て方を学びながら、それぞれのグループに実際に問いを立てていただきました。これから、それを発表していただきます。

総合コース受講生司会

総合コースでは、以上のような講座の流れを経て、問いを自分たちで探しました。以下が、各グループの問いです。

- 1、地域の楽しみ方
- 2、犬について
- 3、幸せについて
- 4、男と女、未来はどうなる
- 5、子育てについて

1月の終わりに、コース内で発表を行い、その中から本日の発表グループが決まりました。では、お願いいたします。

「子育てについて」発表者

私たちは「子育て」をテーマにグループワークに取り組みました。

テーマを「子育て」にした当初から、答えは出ないだろうと、それぞれが感じていました。そんなスタートでしたので、グループワークでの毎回のやり取りこそ、私たちの問いに対する調べ方の形だと思い、グループワークの1回目からの流れも合わせてまとめました。

グループワークの1,2回目は、テーマの「子育て」についての問いを上げ、絞り込む作業でした。しかし当初の予想通り、「子育て」の問いは深く、広く、問いを掘り下げる段階に入っても、まとめることは容易ではなく、さらに、そこに聞き手となる人がワクワクして、感心をよせるようなビッグクエッションを！というお代も加わり、「AI」という言葉がキーワードに上がってきましたが、キーワードにした「AI」とはなかなか結びつきませんでした。

そんな中、それぞれの調査内容を当初やったようなカテゴリ分けやマトリックスに当て込む作業を思い出し、要素要素を一度バラバラにして見た所、それぞれに歴史があり、今よりもっと先の見えない時代も知恵や愛で乗り越えて来たという共通点を見つけることが出来ました。

そしてビッグクエッションを新たに「AI時代の子育てどうなる？」に改めました。スモールクエッションをまず概念と子育てに必要なものとして3方向から考えました。今回は時間の関係上、それぞれのグループ内での反応を主に説明させていただきます。

まずは概念としてスモールクエッションを「子どもとは何か？」で調べました。歴史的に世界でも日本でも「子ども」という概念が生まれた瞬間（定着には長い年月かかっています）があった！ということを知って驚きました。

当たり前と思っていたことを改めて概念としてを調べることの重要性を感じた問いでした。そして「子ども」という概念が産まれてから今日までの子ども観や児童の権利の確立、変容の歴史も知りたい、さらに調べてみたいという興味に

つながりました。

次に「子育てに必要なもの」として道具編では

スモールクエッションを「ベビーカーを使う？使わない？」でベビーカーの歴史だけでなく、抱っことおんぶの文化とスキンシップの重要性について、さらに今後のベビーカーの進化予想もグループ内で行いました。グループ内では全員一致で自動運転までは進化はするであろうという予想でしたが、スキンシップの重要性などの観点からもどこまで進化と社会に浸透するか興味深く、昨今、「AI」と対極な発想で「不便益」という言葉を耳にしますが、まさにこの発想が予感された問いとなりました。

次に教育編ではスモールクエッションを「教育とは何か？」で

教育基本法や世界の教育制度にも触れ、教えると育てるの役割の観点で調べました。知識や理論を教える分野では、今後「AI」の活用、依存を想像しながらも、「子育て」が育てる側と子どもとの相互の愛情が基本であるすれば、まだまだ「AI 子育て」は課題が多いという意見と、アイボなどへの情や愛着の感情も考えると「AI」への愛もあるのではという 2 つの意見が出て、グループワークならではのやり取りがありました。

次に愛情編ではスモールクエッションを「こどもの幸せとは？」で

教育の専門家二人の講演を聞き、そのどちらも AI 時代の未来に向けた教育のあり方を提議していたので、AI は大学入試に合格できるか？という研究についても調べました。調べた 3 人の専門家が子どもに必要なのは、多様な環境だという共通の見解だったのが興味深く、さらにそれを見守る温かな環境こそが子どもの未来を作り、こどもの幸せに繋がるということでした。

グループワークとして今回 4 つのスモールクエッションをビッグクエッションにつなげる行為が発表でまとめるという形であったおかげで、調べて終わりではなく何かないと試行錯誤する事になり、歴史と人間の愛というひとつの発見につながりました。

そしてこれは私個人の意見ですが、現在子育て中の私は調べるまではただただ漠然と不安だった「AI 時代の子育て」も今までのことを教訓に乗り越えて行ける！かも？人間の本能、理性に期待したい、自分も自身のその感覚に敏感に心を傾けて行きたいと思えました。

「幸せについて」発表者

私たちは、「この時代の情報を解読する」というテーマのもとに、「問い」つまり「クエスチョン」の立て方と、答えを導くための情報の解き方を学びました。私たちが導きだしたテーマは「幸せについて」です。メインテーマを決める前に、私たちは答えを探るための 54 の問いを立てました。検証するための問いで

す。「個人の認識の違いで幸せは生じるのか？」や「なぜ幸せは飽きるのか？」など個人的視点から社会的視点まで問いました。

また、54 の問いを立てるにあたり、四つのポイントを導き出すこともできました。

- 1、この中から三つに絞ることは妥当かどうか？
- 2、大人塾の問いに絡んでいるのか？
- 3、問いの導き方に対して、講師の願いをかなえているか？講師への問いは出し尽くされているのか？など
- 4、テーマに対して答えは出せるものになっているのか？

さらに、精査を重ねる意味で、三つの問いを改めて立てることもしました。

- 1、なぜ幸せに質と量があるのか？
- 2、なぜ短い幸せと長い幸せがあるのか？
- 3、なぜ幸せは人や国によって違いがあるのか？

議論を進め、「なぜ幸せは人や国によって違いがあるのか」に絞り込みました。そして、問いに対する答えを導くために、「人や国によって幸せの定義や価値が違う要因は何か？」を話し合い、宗教文化、生活環境、政治体制、市民民族、緊縮国家を調査していきました。世界中に幸せに関する調査結果がいっぱいありますので、それを参考にしました。スイスに所在する機関が発表している幸福の調査や書籍を中心として調査を進めるうちに、日本は幸福調査のランキングで10位以内にも入っていないことが分かりました。日本は世界的に安心して暮らせる国ではありますが、幸せを感じていないのです。日本人が幸せを感じるためにできることとして導き出された五つの答えがあります。

- 1、人を尊重し、愛し、改良を祈ること
- 2、社会の習慣を気にせず、自分らしく生きること
- 3、人と比べることをやめ、自分を良く知ること
- 4、依存しないこと
- 5、自分を大切にし、今を生きること

つまり、幸福は与えられるものでもあり、自ら作り、認識できるものでもあるということです。しかし、改めてこの答えを前にすると、新たな問いが生まれました。そういう意味で、私たちはすべての出来事に誰もが納得する共通の答えはなく、問いを重ねていく中に、その時々のお答えが生まれるのではないかと考えます。ある哲学の本に、次のように書かれていました。「良質な問いの中に答えがある」と。これが私たちの、今回の幸せというテーマへの結論でございます。

ありがとうございました。最後に受講生を代表して一言お願いします。

受講生

授業を受ける中で、「自分の足で歩いて情報にたどり着くことが大事」と学びました。結果的に、私はネットをあまり見なくなり、図書館を利用するようになりました。

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

総合コースはこれにておしまいです。ありがとうございました。続きまして、高円寺コース学習支援者の川上さん、よろしくお願いします。

高円寺コース 学習支援者 川上和宏

みなさん、こんにちは。高円寺コースの学習支援者を務めた川上と申します。高円寺コースは、受講生の皆さんの発表を中心に進めさせていただきたいと思えます。高円寺では、「〇〇カフェ」というコース名を題材にしました。「生き辛さとは何なのか？」という問題を裏テーマに掲げ、家庭や職場の中での人間関係は、異なる領域であること。多様な人間関係があれば、生き辛さの改善につながるのではないかとという主題にたどり着きました。お互いの価値観を交換し合えるような場づくりというものがあれば、色んな生き方や価値観に触れ、自分の生き方の幅を広がっていきます。これが「生きやすさ」に繋がると考えています。前半は受講生の皆さんと対話する場についての座学と、哲学カフェという手法を使った対話の体験をしました。後半は高円寺のお寺、銭湯、学校などと場所を変えて話題提供者をお呼びしながら、場づくりの仕掛けや手法について学んでいきました。後半は三つのグループに分かれて、それぞれの関心に基づいた地域内実践を行いました。受講生のみなさんに発表していただきたいと思います。まずは「演劇あそび de つながろう」グループの皆様、お願いします。

「演劇あそび de つながろう」グループ発表者

入口のわかりにくい会場だったので、参加者の誘導からスタッフの活動が始まり、スタッフも参加者に交じり自己紹介、お互いに緊張してスタート。全員で輪を作り拍手に気持ちを込めて相手に送る拍手回しから始まりました。最初は参加者も表情が硬かったのですが、拍手を隣の人に回す、その時「ただ送るだけではなく、気持ちを込めて手をたたく」、「確かに受け取りました」という気持ちで受け取り次の人に送っていくうちに、気持ちがほぐれて。人の鎖などいろいろな手法で徐々にみなさんも笑顔になっていきました。参加者一人

一人が何かの役を演じ人に伝える体験・ティーブレイク・グループ討議を行いました。以上の流れを当日のスライドを使い、映像を流しながら説明をしました。

今回の実践を通して。

参加された方が、笑顔になって帰っていかれたこと、みんなから楽しかったと言っただけの事がうれしかったです。それから、参加された方が「非日常を演じるのは面白い」という話もありました。次回は同じメンバーで「演劇あそび de つながろう」大人塾祭りにぜひ参加したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

高円寺コース 学習支援者 川上和宏

補足なのですが、「非日常を演じるのは面白い」という意見は、シアターゲームという、俳優が演技のトレーニングで行っている手法で、コミュニケーション能力を高めようという学びを行ったことから出てきたものです。続いて、「高円寺を語り合う「おしゃべりカフェ」」の皆様、よろしくお願いいたします。

「高円寺を語り合う「おしゃべりカフェ」」グループ発表者

私たちのグループ5名は、高円寺に詳しい2名と高円寺初心者3名で、気軽に集まれるカフェを作りました。私は杉並区に引っ越してまもなく1年の高円寺初心者です。開催場所はグループの1人が経営しているお店でした。そこに高円寺にゆかりのあるゲスト2名をお迎えし、前半は参加者25名で、車座になり自己紹介や高円寺の気になっていることなどを話しました。後半40分ほどは、自由に話せる交流会をしました。実践後の振り返りで印象に残ったのは、参加者たちの固かった笑顔が和らぎ、「次回の開催はいつ？」と楽しまれていたことです。開催場所がメンバーのお店ということで実際に見てみたかったという参加者もいました。私たち主催者が様子を気にすることなく、自然に参加者同士が話に花を咲かせていましたので、手ごたえを感じました。私たちおしゃべりカフェは、参加者もスタッフになれるようなつながりを目標にしています。参加者一人一人が、自主性を持ち、主催者にもなれるようなカフェにしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

高円寺コース 学習支援者 川上和宏

ありがとうございます。最後に、「人生100年時代を考えるCafé」の皆様、よろしくお願いいたします。

「人生100年時代を考えるCafé」グループ発表者

今日は、外へ出ようと思ったら雨がパラパラしておりましたので、洗濯ものをとり込むか、傘を持って行った方がいいのかと、雨雲レーダーを見て考えました。AI のような便利なものを使っていくと、100 年時代をうまく生きられるかな？と思っています。100 年と考えたときに、どうやって残りの人生を考えていったら良いのか？子ども世代に、どのようなライフデザイン、ライフワークを伝えていったらよいのか？と考えました。

親がモデル、昭和がモデルではないと思います。多世代・他業種の人たちが集まるようなカフェで、話し合いができたらと思います、このテーマに決めました。当日は 23 名の参加で、車座になって話し合いました。そのことで、少しクイズを出すので、話し合っただけで答えを出してみてください。平成 29 年の 11 月 1 日現在での人数なのですが、男性 53 名、女性 312 名、合計 365 名、これは何の人数でしょうか？そうです。杉並区の 100 歳以上の方たちの人数です。敬老の日のあとに配られた資料に載っていたものです。それだけ人生 100 年は身近なものなのです。今回、カフェをするにあたって、「高円寺まちの駅」にポスターを貼り宣伝をしました。興味があるテーマだったのか立ち止まる方も多く居ました。当日のカフェでは、自己紹介の際に、子どもの頃のニックネーム、子どもの頃の夢を伺ったりしました。100 年時代と聞いてどう思ったかについても話し合いました。話をする中で、「残す物」というキーワードで話し合い、「健康や長生きすること」について盛り上がりました。たしかに健康第一じゃなければ 100 年は生きられません。ただ、それだけではなく、若い人たちが 100 年生きるのにはどうしたらよいか？そのために残す物は何にすべきかについて考えることにしました。「残すと言われてみて、何を残したら良いんだろう？」と参加者の女性が声をあげました。女性が 1 人で生きていく中で、コミュニティがあまりない。さらに、男性が参加しやすいコミュニティはもっと少ないということを知りました。この意見は、これから会を開くにあたって大変なヒントになるなと思います。振り返ると、カフェに出てみて良かったという意見があり嬉しかったです。また、次も参加してみたいという意見も多いです。まとめになりますが、このようなカフェやコミュニティに参加することがまず、人生 100 年時代を生きるうえで大事なことだと考えています。同じような地域で同じようなことを考えている人達と「今から繋がっておくこと」が、先に繋がります。まさしく大人塾もそうです。以上です、ありがとうございました。

高円寺コース 学習支援者 川上和宏

ありがとうございました。高円寺コースからの発表は以上です。

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

高円寺コースのみなさん、ありがとうございます。それでは、西荻コースの発表をお願いします。

西荻コース受講生司会 1

皆さん、こんにちは。西荻コースは人によって違うかもしれませんが、「西荻はじめまして・るるる」とは何だろう？と思い参加した人が多いのではないのでしょうか。「さわる」、「知る」「行動する」の3つの「る」をとってつけたものなのですが、41名の方が集まりました。6名の「地域の世話人」の方と、「学びの案内人」の船尾さん、事務局の方に、西荻の街をテーマにいろいろな体験をさせていただきました。本当にいろいろな人たちと出会い、「こんなことも街でできたのか！」と思うこともありました。話し合いを進めていく中で、「自分たちには何ができるのか」という考えから、名刺で作ることになりました。今日はその名刺がどのようなものだったのかを参加者の投票で選ばれた9人分、発表します。まずは、今日来られなかった4名の名刺を紹介し、その後、今日来ていただいている5名の名刺を発表したいと思っています、よろしく願いいたします。

西荻コース受講生司会 2

今回は、参加者の方がそれぞれ名刺を作り、得点をつけた結果、高得点のものを発表するという形になりました。高得点だったが来られなかった人もいるので、そちらの名刺は今から紹介させていただきます。

名刺①

肩書は、「西荻子ども連合のボス」です。これは私が子ども達にボスと言ってもらいたいがための野望です。高齢の方と子どもたちの2つの層を繋ぐのが、私たち大学生のような存在だと思いました。「突撃、隣のおじいちゃん」という企画で、近所のお年寄りのお家に子どもたちと訪問して、昔の遊びを教わったり話を聞いてもらったりします。顔見知りのご近所さんが増えれば、その子どもの親も「挨拶しなきゃ」と地域に興味を持って顔を出すようになるかもしれません。また、子どもの声には場を明るくする力があると思うので、わいわいキヤッキヤと安心できる社会を作っていきたいと思い名刺を作りました。4月から社会人となりますが、この大人塾で学んだことを、これからの暮らしに結び付け、楽しんでいこうと思います。

名刺②

私は大人塾で谷川俊太郎さんをお呼びしたいと名刺を作りました。皆様よりご

支持いただき、本当に嬉しく思っています。ありがとうございました。名刺の肩書は「大人塾で谷川俊太郎を呼び隊」です。私は図書館で、赤ちゃんの読み聞かせのボランティアをしています。絵本は心の栄養、ビタミンと言われていきます。その際、いつも谷川俊太郎さんの絵本や詩が多くあり、日本のかけがえのない作家だと思っております。この杉並にお住まいで86歳になられる谷川さんを大人塾にお呼びしたいと心より希望しております。また、昨年大人塾まつりで東儀秀樹さんのコンサートに感動しました。そこで大人塾のことを知り、講師にお呼びすることが可能かもしれない希望を持って受講させていただきました。本当に、実現できますように。どうぞよろしくお願ひします。

名刺③

名刺の肩書は「キッズとミュージックを！西荻サロンコンサート代表」です。子どもたちがみな、30歳を過ぎ、独立していったので、私にはグランドピアノやギターなどの楽器が眠っています。遠くのコンサートホールに行くのはなかなか難しいと思いますが、子育て中の若い方が、気軽に我が家のリビングで行うミニコンサートに来てくれると嬉しいと考えました。特に0歳、未就学児のお子様に向けて、プロの先生方が素晴らしい音楽を奏でていただき、古いですが、弦楽器などを見て触っていただきたいです。ご家族で楽しいひと時をお楽しみいただけたら幸いです。

名刺④

私の「孤独を生きる会」というタイトルですが、発表後すぐに「孤立ではないですよ？」と釘を刺されてしまいました。私には孤独も孤立も孤立無援という意味では大差ないと思っております。

コトを起こすには、

- 1、企画を立てる
- 2、人を集める
- 3、資機材を調達する
- 4、お金を工面する
- 5、大きな企画なら関係機関や業者と契約する
- 6、広告店に連絡をする

これらが必要になります。さらに私は次のように考えます。

- 1、他人のまねではなく、自分のスタイルで企画したい
- 2、企画が自分の流れにのっているか
- 3、社会の役に立っているか

世の中には人知れず、紹介したい人がいます。自分を深く見つめ、技術を高め

ている人々です。彼らはまず、孤独になり、必要な人間色を出し合うのです。そんなことは、私には無理なので、私のことは放っておいてください。というものです。

この方、とてもユニークなキャラクターの方で、ぜひご自身で発表していただきたかったのですが残念です。

西荻コース学習支援者 船尾本

それではこれから、今回来て下さった方の発表をお願いします。

発表者①

私は「大人の夜会実行委員」「縁の下の力持ち担当」と書かせていただきました。男女とか、年齢とか関係なく、ボーダーレスに飲み会ができれば、いろいろな考え方を聞いて楽しいだろうな、という発想から作りました。塾という形でやると、どうしても私は気後れしてしまうので、飲みながら食べながらで楽しくやれば、本音も話せて嫌な会にならないと考えています。自分のことになりませんが、私は西荻で生活し始めて10年くらい経ちます。西荻に引っ越してきたときに、「大人にならなきゃ」と思い、「大人の女性になるためには、ひとり飲みができれば良いのではないか？」と考えるようになりました。西荻は丁度良い場所でした。そこでたまたま入ったお店の方とも仲良くなれて、その方たちが開催するイベントにも行くようになりました。そうしているうちに、地域の方と顔見知りになっていきました。近所の人と顔見知りになると、生きやすくなったと思います。基本的には同じように、顔見知りが増え、楽しくできる環境づくりのお手伝いができたらいいなと思っています。ありがとうございます。

西荻コース学習支援者 船尾本

ありがとうございます。

発表者②

入賞すると本当の名刺がもらえるというので、頑張りました。タイトルは「良いこと探したい(隊)。お宝紹介したい(隊)。」です。1月12日に岩波書店の広辞苑が新しくなりました。24万件から1万件増えて25万件になりました。1万件のひとつとして「共用品」という言葉が入りました。これは、障がいがあってもなくても一緒に使えるものということです。実は、1991年4月8日にこの言葉を考え出した20人のうちの1人です。いままで用具は、障がい者や高齢者が使えるもの、使えないものの2つに分かれていました。一緒に使えるようになってきたというのは、この20~30年くらいのことなのです。具体的な例を挙

げると、福祉用具から日常的に使うようになったもので「電動歯ブラシ」があります。最初は手が不自由な人のために作られたものなのです。続いては「温水洗浄便座」です。こちらも医療機器として作られたものなのです。このように、福祉用品が一般製品となることもありますし、最近多いのは、一般製品の不便さを取り除いて、共用品にすることです。シャンプーとリンスのシャンプー側にギザギザがついて共用品になったこと、ノンステップバスが一般化したことなどです。30年程前、いろいろな福祉団体、企業が一緒になって、共用品を考え始めました。最初は20人だったのですが、8年後には400人くらいになりました。銀座11カ所を占拠し、「バリアフリーは銀座から」とアピールをしたり、ドラえもんを利用させていただき、いろいろな絵本を作ったりしました。とても楽しい8年間でした。今では、「財団法人共用品推進機構」という漢字しかない名前でも活動しています。見えない人を対象に不便さ調査を行ったり、聞こえない人を対象に不便さ調査を行ったりしました。車いすの人たちの調査、100歳の人たちを含める高齢の人たちの調査もしています。不便さ調査の欠点として、マイナスから0にするまではできるのですが、0以上にするのはとても大変です。そこで、不便さではなく良かったこと調査をはじめました。そこで感じたのは、コミュニケーションを取り、共有することで問題を抱えていることに気づいてあげられるということです。今日、ここだけは聞いてもらいたいのですが、江戸時代の文章に、「みそ餡は葉っぱの裏を表にして巻く、こしあんは葉っぱの表で巻く」と書かれていました。見た目だけでなく触っても分かる。江戸時代から共用品、ユニバーサルデザインがあったのです。杉並区でも、ぜひ一緒にこのような活動をしていきたいと思っています。最後に、2階建てバスに車いすの方が普通に乘っている写真があります。このようなことが普通になったらいいなと思っています。ありがとうございます。

西荻コース学習支援者 船尾本

ありがとうございました。「良かったことを探したい。お宝紹介したい」という名刺を作られました。続きまして、3人目の方、よろしくお願ひします。

発表者③

私は「笑顔マイスター」という肩書で名刺を作りました。私がとても気に入っている美容法に笑顔のエクササイズがあります。これは、素敵な笑顔になれるだけでなく、免疫力アップや若返り効果、対人関係向上と良いことだらけなんです。ではここで、皆さんに質問です。「表情って誰のためにあるのでしょうか？」お考えになったことありますか？そう、人のためですよ。お店に入って、店員が不機嫌でぶすっとしているより、嘘でも愛想笑いでも笑顔が良いと思いま

す。人と向き合って自分を示すお顔の表情。社会との重要な接点とも言えます。素敵な笑顔は「お会いした方への、あなたからのプレゼント」です。そして、人生に最も大きな変化をもたらすものは、「人との出会い」と言いますから、人との出会いに素敵な笑顔のプレゼントが出来たら良いと思います。私は、素敵な笑顔の花を自分の周りの人に咲かせてほしいと思い、今回この肩書の名刺をすぎなみ大人塾で作成致しました。以上になります。ありがとうございます。

西荻コース学習支援者 船尾本
はい、ありがとうございました。

発表者④

私が大人塾西荻コースで作った名刺には、「公園と集会場を楽しく使う会事務局長」と書いています。娘がまだ小学校三年生なので、児童館の学童クラブにお世話になっているのですが、つい最近、行きたくないと言い始めました。理由は「窮屈だから」です。待機児童が多く、常に満員状態なのです。児童館の前には公園があるのですが、児童館から外へ出てはいけないという決まりがあるため、子どもたちは遊びに行けません。また、この児童館の1階の半分と地下は集会場になっているのですが、集会場にはほとんど人影がありません。児童館の前にある公園は、木々が大きくて風通しが悪く、蚊などの害虫もいますし、トイレもボロボロです。

そこで、区報にも書かれていましたが、いまの施設に愛着を持って大切にできるような、多世代交流施設に変えていきたい、と考えています。まずは、西荻の住民が、「こんな風になったらいいなあ」、「あんなふうになったらいいなあ」と話し合う会を作りたいと思っています。よろしくお願いします。

西荻コース受講生司会1（発表者⑤）

駅や建物などにあるAEDをご存知でしょうか？私は「AEDコーディネーター」という名刺を作りました。「AED、A愛をE永遠にD伝達する街・西荻」と考えました、西荻のAEDの前で待ち合わせるカップルは幸せになるという伝説を全国に広めたいなと思っています。AEDを学ぶことを通じて、西荻と人と人が出会い、助け合う町にしていきたいです。AEDは、自動体外式除細動器と言いまして、心肺停止状態になった方の心電図を解読して、自動的に電気ショックをかけるものです。多くの方が使えるようになると、救急隊が来る前に措置を行えるので蘇生率が上がります。そのため、いろいろなところに設置されているのです。このAEDを何か違う形でアピールできないかなと、AEDコーディネーターとして

考えてみました。具体的には次の3つです。

- 1、街のAEDをめぐるカップル募集（ペアの絆になる）
- 2、まちかど救急隊を増やす
- 3、魅力的なAEDの収納ボックスを作る

まちかど救急隊は、4人集まって名簿に登録することによってAED等を貸し出してくれる制度です。知っている方が少ないと思いますので、認識率を高めたいと思っています。杉並独自のまちかど救急隊をもっと広報していきたいです。まず、杉並の救急講座を受けた人が地域の人に教えるといった体制を整えたいと思っています。また、AEDの収納ボックスは味気ないものなので、もっと魅力的なものを考えて、最終的に待ち合わせにも使えるような場所にしたい。そこには、協賛した企業等の広告ができるような形にもなっている。それとAEDのマークなんですけど、ハートのところに稲妻になっているんですけど、魅力的なAEDのマークコンテストをやってみるのも面白いと思います。

西荻を支え合いの町、そういう町にしていきたいなと思っています。今回大人塾に参加させていただきまして、機が熟しているのかなと考えました。この場をお借りしまして、このコースを運営してくれた方々にお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

総合司会 社会教育センター社会教育主事 中曽根聡

どうもありがとうございました。3コースそれぞれにもっとお話を聞きたいなと思った方もいると思います。後半に、大人塾まつりの出店案内をしますので、発表していただいた方はじめ皆様、ぜひ出店をご検討ください。これから地域で何かをはじめる予行演習にもなりますし、ご自身が関心あるテーマについて一般の方に詳しく発信する場にもなると思います。また、西荻コースの5名の方は、それぞれ100枚、本当の名刺を作って持っていますので、積極的に声を掛けて名刺をもらっていただくと良いのではないかと考えております。みなさんありがとうございました。

それでは、ここで第一部を終了させていただきまして、第二部交流に入りたいと思っています。その前に、第二部に向けてワークシートを2枚お配りしていますので、書き方について、第二部の進行をしていただく川上さんから説明させていただきます。

高円寺コース 学習支援者 川上和宏

交流会では聞くだけでなく皆様に話していただければと思います。休憩時間に、ワークシートの記入をお願いいたします。

(文責：NPO 法人・生涯学習 知の市庭)